

自然と人間の共生空間をつくる

理事長 田尾陽一

東日本大震災をきっかけにした原子力災害で私達は、巨大なシステムに支えられた現代生活が一瞬のうちに崩れることを体験しました。人が作り出した原発は、地震や津波の被害に加えて地域を放射性物質によって汚染し、自然と人間が営々と共生し続けてきた山林・農地・農作物の循環を断ち切りました。



私たちは村民・ボランティア・専門家の協働により、放射能・放射線の測定、営農再開のための試み、地域の絆の再生を目指した活動を行い、生活と産業の再生に総合的に取り組んでいます。そこで見出された正確な状況把握・事実分析の上に、多くの課題の解決策を見出し、地域に根差した開かれた公共空間の再生を目指しています。



2011年6月6日初めて飯舘村の菅野宗夫さん宅を訪問した18名。この日、メンバーのなかから田尾陽一、大永貴規(衛生工学・地域プランナー)、三吉譲(精神科医)が発起人になって菅野宗夫さんと協働する“ふくしま再生の会”の結成を決定した。(撮影:土器屋由紀子)

地域を共につくる

福島代表 副理事長 菅野宗夫

飯舘村は今、フレコンバックの山が積み上がり復興の難しさを目の当たりにする状況が日常となっています。復興の道を考えて一人ではなにもできません。特に多面的機能を持つ農地は生活環境に大きな影響がありますので、暮らしやすい地域ということも含め皆で話し合いながら進めていく事が大事です。



そしてこれからの地域活性化のためには、都会の人と田舎の人と一緒に取り組むことも必要だと思っています。村に戻る人、戻らない人、戻れない人、村民以外の都会の人それぞれが交流し共有できる飯舘村を目指して、前向きに取り組んでいます。

現場重視の人をつくる

副理事長 溝口勝

今回の原子力災害では科学技術に対する信用が失墜しました。そんな状況の中、大学としてできることは何かと思い、「福島復興農業工学会議」というグループを立ち上げ、他大学を巻き込みながら「ふくしま再生の会」と一緒に活動しています。また、農学部教職員有志による「サークルまでい」が飯舘村で採取された土壌や植物等の試料を測定容器に詰め込む作業を担い、農学部内の施設で放射性セシウムを測定し、そのデータを再生の会に提供しています。大学の大切な使命は人材育成です。私たちは熱いハートとクールな姿勢を備え、住民に寄り添うことのできる人材育成のために現場重視の教育活動を続けております。(東京大学農学生命科学研究科教授)



認定 NPO 法人 ふくしま再生の会

【東京事務所】

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 1-3-6-2F1
 電話 03-6265-5850
 FAX 03-6265-5859
 Mail: desk@fukushima-saisei.jp
 HP: http://www.fukushima-saisei.jp/

【飯舘事務所】

〒960-1815 福島県相馬郡飯舘村佐須字滑 87

【福島事務所】

〒960-8042 福島県福島市荒町 4-7
 福島県再生可能エネルギー合同ビル

【霊山センター】

〒960-0807 福島県伊達市霊山町石田字彦平 1-18



ふくしま再生の会飯舘事務所(菅野宗夫宅内)

福島・飯舘村の再生をめざして

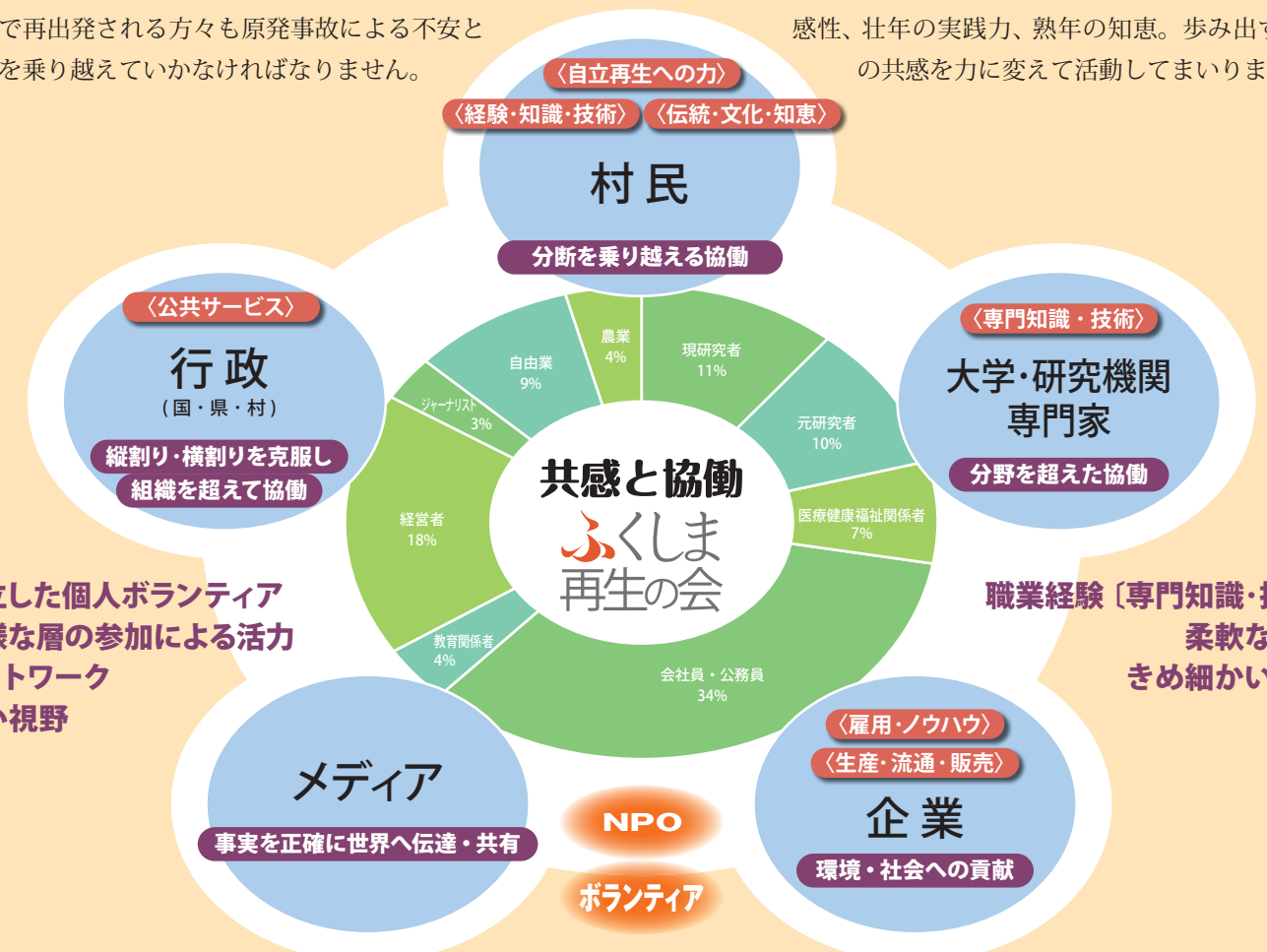
ふくしま再生の会

表題写真/左:事故前(飯舘村役場提供) 右:2017年4月

再生への道

福島第一原子力発電所の事故は、農地、森林、住宅、海や川を放射能で汚し、そこに暮らす人々の生活・生業、育まれてきた文化をも破壊しました。事故から7年が経過し、避難を余儀なくされた地域でも避難指示解除となるところが増え、帰村される方も徐々に増えています。しかし、事故がもたらした傷は大きく、帰村を決意された方々も、新たな土地で再出発される方々も原発事故による不安と分断を乗り越えていかなければなりません。

「ふくしま再生の会」は村民を中心とし、行政、大学・研究機関、企業、メディア、市民ボランティアなどさまざまな人々がつながり協働するために、行動計画を立て、再生に向けた活動を継続して行きたいと考えています。被害者であることに留まるのではなく、未来に向け一歩を踏み出す方々がいるとき、そこには共に歩む人が必要です。若者の柔軟な感性、壮年の実践力、熟年の知恵。歩み出す方への共感を力に変えて活動してまいります。



現在の活動

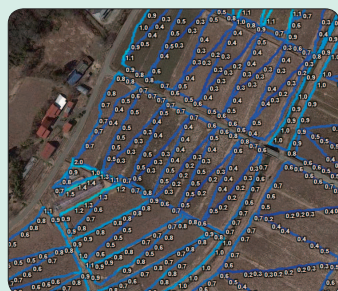
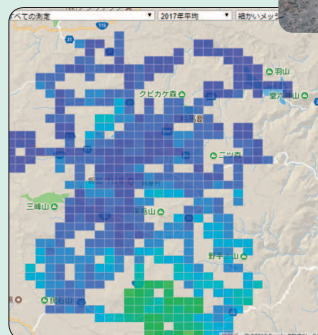
基本的活動

モニタリング

専用車路上測定
徒歩測定
定点モニタ
エアロゾル
住宅・周辺測定
個人線量測定



《会員の一言》空間線量だけでなく、個人線量を生活行動と併せて把握し、被ばく低減のための知恵を絞っていきたくと考えています。(佐野)



放射能分析

土壌
農作物
山野草コケ
樹木
大気など

《会員の一言》動植物や土壌のサンプルを測定容器に詰め、測定結果をデータベースに登録する作業を通じて飯舘村を応援しています。(齋藤)



発展的活動



米・酒米栽培
ハウス栽培
田畑の継続除染

農業再生



《会員の一言》土壌の汚染を低減させる試みと併せて、安心して食べられるクリーン野菜のハウス栽培・販路の開拓に取り組んでいます。(大永)

木材利用 イグネ除染
木材・ほだ木の放射能測定

山林再生

《会員の一言》山林の恵みを生活の手元に取り戻したい。村民の方々の経験や技術を活かしながら、さまざまな取り組みを共に進めます。(小原)



コミュニティ支援

交流サロン
個別訪問

健康相談
食事指導
マッサージ

《会員の一言》暮らしに必要な生活支援のサービスを広げていきませんか。皆さんと協働してやっていきたいと考えています。(中町)



体験ツアー

農業・農村生活体験ツアー
団体・学生・研究者の村内ツアー

《会員の一言》厳しい現実とともに、村の方々の思いや飯舘の自然に触れ、考えるきっかけをつくりたい。(二宮)



これからの課題

最新の活動

農業再生

地力再生
牧草地再生
農作物の販路開拓

営農再開に向けて、地力回復、特産品の開発や販路開拓を村の方と協働で行います。村の方の農業経験を、都会人に農業体験として提供する事業に取組みます。

山林再生

山林資源の利用
炭焼きの再生

山林の再生を目指します。材木や熱資源としての利用法を研究し、村の生活を支える資源として再び利用できる方法の開発に取組みます。

村内拠点づくり

コミュニティ活動支援
個人線量測定
地域放射能測定所

帰村後は、地区住民同士の助け合いが今までよりも必要になります。それに加えて今は村に帰らないという方々の寄合、放射性物質への取り組みのための専門家やボランティアとの意見交換や個人線量の確認、健康医療ケアの場として利用できる拠点が必要です。帰村される方々と協働して取組みます。

地区住民

帰村者
将来帰村者
他地区住民

協働農場・花づくり
農産物の加工品づくり
凍み豆腐・味噌
炭焼き
植樹
健康相談
山菜取り
被ばくチェック
農家民宿経営
郷土芸能の復活
舞・囲碁・将棋

コミュニティ活動

健康相談
交流
生産・販売
学習
線量測定

農業・農村体験

支援者・訪問者

若年世代
中高年ボランティア
外国人

農業体験
農家宿泊・学生合宿
料理加工品づくり教室
植樹体験
健康見守り支援
被ばくチェック支援
山菜取り体験
農園オーナー
炭焼き体験
寺子屋・熟年塾
パソコン教室

アーカイブ

私たちの活動記録や放射線・放射能の測定結果を活用し、村民や社会に提供し、未来に伝達します。活動の統合記録システムを創り保存します。

活動を支えるために

- 【会員になる】 ● 個人正会員 / 年会費：10,000円 (総会での決議権があります)
- 個人賛助会員 / 年会費：5,000円 ・他に団体会員もあります
- 【寄付をする】 ● 一口3000円 (何口でも)

ホームページ <http://www.fukushima-saisei.jp> の「寄付・入会申し込みフォーム」に必要事項を入力し、右記の口座に寄付金・会費をお振込みください。入金確認後に事務局より領収書をお送りします。
*寄付金・賛助会費は税金の控除が受けられます。

【振込先】

- 名義：特定非営利活動法人 福島再生の会
 - 銀行口座
三井住友銀行 白山支店 (店番 228) 普通預金：6840260
ゆうちょ銀行 店名：〇一八 (ゼロイチハチ) 普通預金：4673305
 - 郵便局
口座番号 10190-46733051
口座番号 00160-5-386077
- *恐縮ですが、振込み手数料はご負担ください